

海を紡ぐ方舟 瀬戸内海における分散型舟宿泊施設の提案 The Ark That Weaves the Sea

Proposal of decentralized boat-integrated accommodation facilities in the Seto Inland Sea

○梅澤秀太¹, 長谷川洋平²

*Shuta Umezawa¹, Youhei Hasegawa²

Japan aims to become a "tourism-oriented country" by utilizing its tourism resources, and the tourism industry is reviving in response to the downgrade of COVID-19 by the Infectious Diseases Act. Among them, marine architecture attracts attention for its ability to showcase the charm of the sea. However, despite Japan's maritime country, there are few architectural projects that harmonize with the sea. There are also concerns about landscape changes and environmental impacts due to redevelopment. This research proposes a decentralized accommodation facility that coexists with the sea while preserving Japan's maritime culture.

1. はじめに

日本は観光資源を活用して「観光立国」を目指しており、感染症法による COVID-19 の格下げを受けて観光産業が復活している。その中で、海洋建築は、海の魅力を活かした観光の形として注目されている。しかし、日本の海洋国家にもかかわらず、海と調和する建築プロジェクトは少ないのが現状である。また、再開発による景観の変化や環境への影響も懸念されている。本研究は、日本の海洋文化を守りながら海と共生する分散型宿泊施設を提案する。

2. 計画背景

2.1 日本における観光業の現状と目標

日本の観光市場は、コロナ禍を経て回復傾向にあり、訪日外国人旅行消費額は過去最高となった。しかしながら、目標である 8 兆円には届いておらず、取り組みの強化が求められている。¹⁾

その中、訪日外国人旅行者 8 人分の消費額で定住人口 1 人当たりの年間消費額を補うことができることから、今後人口が減少する見通しの日本において観光の重要性が明確になっている。²⁾

観光庁の「観光立国推進基本計画」では質の向上を重視し、高付加価値旅行の勧誘や高付加価値化などにより旅行消費額単価の向上が必要とされている。また、彼らは大都市圏での買物消費等が多く、地方での消費が少ないことから、地方への誘客を促進することにより、地方創生へ貢献することが期待されている。¹⁾

つまり、地方において従来の宿泊とは違う宿泊体験を提供できる高付加価値の宿泊施設が求められている。その中で「地方における 高付加価値なインバウンド観光地づくりアクションプラン」の一環として、集中的な支援を実施す「モデル観光地」が決定された。³⁾

2.2 沿岸部における大型再開発の課題

石垣島・白保のリゾートホテル開発計画では地下浸透方式による下水処理によるサンゴ礁海域への汚水の流入、ホテルの光によるウミガメ産卵行動への悪影響、宿泊客の過剰利用による当該海域の環境破壊などの懸念点から訴訟問題にまで発展している。⁴⁾

2.3 海外と国内の沿岸宿泊施設の事例

海外と日本の事例を比較すると海外に比べて海と共生しているプロジェクトが少なく日本は眺望としての海が存在しているという事例が多い。

要因として考えられるのは、自然災害の弊害、外資系ホテルの依存、日本の社会的要因があると考えられる。加えて、ビジネスホテルが多く、母数としてリゾートホテルが少ない傾向にある。

しかし、近年外国人観光客が多くなっており、今後人口が減っていく日本において旅行者の重要性が明確になった今、従来の宿泊とは違う価値を与える宿泊施設を整備することが必要である。

3. 計画地-瀬戸内海の島々-

3.1 観光づくりモデル観光地に選定されたエリア

瀬戸内海は「地方における 高付加価値なインバウンド観光地づくりアクションプラン」として、集中的な支援を実施す「モデル観光地」に選定された。³⁾ 瀬戸内海はその多島海景観が国立公園と指定されており、NY タイムズ誌の『いまいくべき観光地』で世界 7 位 に選出され世界からも観光客が押し寄せている。

3.2 波が穏やかな内海

瀬戸内海は日本最大の内海にして、自然災害が少ないおだやかな海域である。これには以下の要因がある。⁵⁾

1. 閉鎖性海域のため、うねりの影響を受けない。

1: 日大理工・(院)・海建, Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University

2: 日大理工・教員・海建, Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University

- 2. 海域の幅が狭いため、うねりが大きくなる。
- 3. 障害物となる島や岩礁が多く、更に波を吸収する浅い海岸が多い。
- 4. 水深が浅い。平均水深 38 メートル。
- 5. 大河のように流れる「潮流」が、波やうねりのエネルギーを吸収してしまう。

また外洋からのうねりの影響を受けない瀬戸内は、風が止まると湖よりも静かな「風」となる。「風」とは高気圧が入った日の朝夕や、気温が上がらない春秋に多く見られる現象で、海と陸の気温差がゼロの時の状態をいう。

更に瀬戸内海の波は穏やかであるが干潮差が激しく、干潮差が最大で3メートルに達する地域もある。

3.3 瀬戸内海の家船の歴史-過去-

過去瀬戸内海には家船の居住形式が存在し独創的な生活様式を営んでいた。家船の居住形態は1970年代に消えたが、家船の生活経験をもつ住民は現在でも広島県の因島土生町箱崎地区に多数居住している。家船の生活様式が反映された口承文化は、いまなお地域社会の伝統行事の際に発揮されている。⁶⁾

3.4 アートが点在する瀬戸内海の島々-現代-

瀬戸内海の島々には多くの美術館やアートが点在しており地域の特徴と一体化した作品が各所に点在しており瀬戸内海において非常に重要な観光資源になっている。

4. 提案及び基本計画

4.1 分散型宿泊施設の提案-集合から分散へ-

景観が重要視されている瀬戸内海での一局集中的な大型建築ではなく島々を舞台に回遊性のある分散型宿泊施設を展開する。分散型に宿泊施設を展開することで瀬戸内海の複合景観になじむ風景を作りながら海や水辺においての生態系や環境への影響を最小限に収めることを目標とする。

4.2 舟型建築

4.2.1 新たな宿泊施設の体験

宿泊施設の新たな在り方として舟を単体で機能させ、海の上での宿泊を可能にする舟型建築を提案する。これは日本において海を眺望として利用した従来の海洋建築と異なり閉鎖性海域である瀬戸内海に特有の新たな建築構成として提案するものである。

4.2.2 日本独自の海洋文化の継承

瀬戸内海観光戦略 2023-2025 では質を重視した「高付加価値なインバウンド観光地づくり」による地方創生においてその土地の独自の文化や歴史を体験することで観光体験の充実を図り、文化伝承を促進すること

が言及されている。現代において家舟の文化を保存することは住宅用途としては現実的ではないが、家舟の文化を宿泊施設の体験と再解釈することで日本独自の海洋文化を伝承しながら高付加価値な宿泊体験を提供する。

更に地域のアイデンティティを引き継ぐことで実際の建築プロジェクトの際に行政や地域住民からの共感を得やすいと考えられる。

4.2.3 機能性と拡張性

舟形建築は単独で建築として機能するが固定建築との接続で空間の拡張も行う。

4.2.4 環境との調和

離れである舟は水面に浮かぶ建築というその特徴から潮汐の周期に応じて床のレベルが変化する。固定建築との接続時は干潮差から固定建築との床のレベル差が生じ、海の満ち引きと絡み合い、ただの一日限りの刹那的な宿泊体験の時間ですら、数時間単位で時間と共に変化する豊かな空間となる。

4.2.5 構造及び係留方法

本建築は2つの構造形式で構成される。一つは固定建築で2つ目は建築の機能を持つ船である。一つ目の固定建築の基礎は杭基礎構造一部ジャケット構造とする。2つ目の船と固定建築の係留法はドルフィン形式としドルフィンと舟の接続部分に緩衝材を設け力の分散、緩衝効果の緩和を図り水平動揺を抑える。このような2つの異なる構造形式を採用することで舟形建築として海へ繰り出すこと可能にし、係留時には建築と舟が空間として一体化しつつ干潮差に応じて舟型建築の床のみのレベルが変化する自然の周期と呼応する建築空間を可能とする。

5. 参考文献

- [1] 観光立国推進基本計画観光庁 令和5年3月31日
- [2] 第4回アフターコロナ時代における地域活性化と観光産業に関する検討会参考資料 観光庁 2022
- [3] 高付加価値旅行者の誘客に向けて集中的な支援等を行う モデル観光地11地域観光庁 令和5年3月28日
- [4] 石垣島・白保のリゾートホテル開発計画が訴訟問題に (<https://www.wwf.or.jp/activities/activity/3729.html>)
- [5] 瀬戸内海 の特徴 (https://www.dreamisland.cc/tour/reference/setonaik_ai.html)
- [6] 瀬戸内漁民と口承文化 一尾道市因島地区における家船 の生活経験と歌謡 一早稲田大学 武田尚子